

---

# 魔法使いの隠居生活

つきみ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法使いの隠居生活

### 【著者名】

ツキミ

### 【作者略】

N1234P

つきみ

### 【あらすじ】

魔法使いの青年の隠居生活。のんびり過ごす毎日。  
気が赴くままにのんびりつらつらと書いていきます。

そのうちおんにゃの子とのんびりする話も書きたいかもしれません。  
掌編連載という感じで文字数は少ないです。

## こつもの軒から。（前書き）

ふと物語を書いてみたいと思つて書いた。どうぞよろしくお願いします。

いつもの朝から。

「ふー、今日もいい朝だね

一人の青年が木製の小さな一戸建ての家から出でてくる。  
朝日が木々の隙間から彼を照らす。

彼以外、住人がいない森の中。

「さて、まず朝御飯からだ」

家の中に戻り木屑を放り込み、指を振る。  
そして、木屑が燃え出す。

この世界では魔法といつものがある。  
今のように火を出したり、水を出したり、怪我を治したり……。  
人によって様々なものがある。

「昨日の晩御飯の残りの味噌汁と……後は保存庫に、と……あつた  
あつた。パン食べよつと」

もぐもぐ。

「んーと、後で畑を耕して……街に売つてそんでいるもんを買って  
くるかねえ」

指を振ると火が消えた。

「さて、今日ものんびり過ごしちゃう。そうじょー。えいえい、おー」

## 近くの町 - 1 -

森を抜けねばそれなりに大きな町がある。

今日はここで買出しの口だ。

ですがに全てを自給自足するのは難しい。

「あ、トキさん。今田も持つてきましたよ」

「いつもどおり、この世界では珍しい黒髪を腰まで綺麗に伸ばしている齡23の女性、トキが彼の相手をする。

「あっ。お兄さんおはよーいじゃこますっ」

「はい、おはよーさん。全部無農薬ですからね」

野菜をざわざわと置く。

「わあ。相変わらず細い身体なのに力持ちですね~」

「そうかな? ありがとう」

ふわりと彼女が着てこむワンピースが揺れ動く。

この街でもヒロインの座を争う彼女の笑顔はいつ見ても美しい。

強化魔法をかけて基礎力を底上げしている彼は涼しい顔で答えた。

「じゃあ、いつもの値段で買取ますね」

「うん。ありがとうございます。今回のも絶対美味しいからね」

「やつたつ。いつもありがとうございます。あっ、そりだ」

「うん?」

「今日のお昼は我が家にどうですか? このお野菜たちを使って美

味しい料理を」駆走しますよ

「いやいや、そんな悪い……」

「いえっ！ 大丈夫です！ お父さんも喜ぶんで来て下さいよ！」

「え、ああ……うん。わかった。そこまで言つなら……お邪魔させてもううつよ」

「本当ですか！？ やつたあ！」

ささ、行きましょうー。と彼の手を引くトキ。

その笑顔に推されてやれやれと手を引かれていく。

人との関わることを好まない彼にとっては、珍しいことであった。

## 近くの町・2・

「じゃ～んっ。どうですか？？」

「おおー！」

田の前には美味しいそうな料理が並んでいた。

「凄いね。あの食材からこれほど・・・」

「えへへ。今日は自信作なんですよ」

トキの笑顔はとても眩しく感じた。

「美味しいよ。とっても、ね」

「良かつたあ」

「ただいま」

「あ、お父さん。おかえりなさいー。」

「お邪魔します」

「おやおや。久しぶりだねえ」

「そう、ですね。こちらにお邪魔するのは久しぶりですね・・・」

「ほひつ。お父さんも食べよつーお腹空いたでしょひつ？」

「ああ。もちろん頃くよ」

「うひつ。ひよつと待つててねー！」

ぱたぱたと台所へ行つた彼女に安心して。

「随分と、明るくなりましたね」

「やつだねえ。最初はどうなるかと思ったが・・・」

父は遠ご用をす。

「あの頃の」とは恐りへシヨックで抜けてしまつたんだから、とお医者さんには言われたよ

「そう、ですか・・・」

「僕が父親だつて信じてるんだからねえ」

「貴方は間違いなく父親ですよ。血は、繋がつてなくとも、ね

「そりかい・・・ありがとうねえ」

「トキさんを貴方に押し付けたのも全て――――――

「ほれ、トキが来る。話は終わりだねえ」

「お待たせつ――・・・どうかしました?」

「いや、今日もトキさんには可憐にな、と黙つてね

「いやつ、ふああつ――・・・」

近くの町 - 3 -

夜中、自分の家で寝ていた時だ。

なんとなく。

なんとなくだが。

嫌な予感がした。

家を飛び出し町の方を見る。

そして、夜ということを忘れるほど赤い炎。夜空を汚す煙。

「ふわわわわわ…」

すぐさま自身に強化魔法をかけ、風の魔法で空へと飛び立つ。

「トキ… あの人との約束を破る訳には…」

トキを守ってくれと約束をした。

「……ふわわ…」

そして、覚醒せないでくれとも。

産み親とも言える研究員に言われている。

「戦闘行為に身を委ねるのは厳禁……だつてね…」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1234p/>

---

魔法使いの隠居生活

2011年3月19日14時35分発行